

道路改良を図るべきと思うが

線形見直しの検討を進める

問 町道白山・石峠線の白山側入り口付近は緩やかなS字カーブとなっており、特に冬場は民家の影になっていたり、路面が凍結し通行に不便を来している。現在、新たな県道の整備が進められているが、同路線は県道に接続し、今後は大型車両を含め交通量の増加が予想される。入り口を羽々の下側に移設して直線とし、車両の円滑な通行を図るべきと思うが、いかがか。

佐藤町長 現在整備が進められている新たな県道宮古山田線から羽々の下側に接続する町道部については、安全面から改良が必要な箇所と認識している。線形見直しの検討を進めていく。

問 県道の完成時期29年度に合わせて工事を進めてもらいたい。

川守田建設課長 線形の見直し検討を進める。関係地権者との合意が得られれば、そのように進めたい。



佐藤克典 議員
(政和会)



改良が望まれる町道白山・石峠線

第3子以降に祝い金支給を

他の施策で支援を行う

問 出生率向上のため、第3子以降出産に対して祝い金を支給し、多子世帯の保護者の経済的負担軽減と本町への定住促進

を図るべきと考えるが。
町長 子育て世代への経済的な負担を軽減するため、乳幼児・児童生徒等の医療費助成や保育料等

の負担軽減を実施しているところであり、現在のところ出産祝い金の支給は考えていない。
29年度から子育て世代包括支援センターを立ち上げ、妊娠・出産・子育てのさまざまなニーズに対し、決め細やかで切れ目のない支援を行う。

完全給付型奨学金制度

33年度以降も継続すべき

制度のあり方等も含め検討

問 29年度から大学や高校などに進学する生徒への奨学金制度について、貸与型から返還不要の給付型へ移行し、進学を後押ししたいとのこと。このことは経済的理由で進学を断念せざるを得ない意欲と能力のある児童・生徒や保護者にとって喜ばしい制度と思う。

しかしながら事業対象期間が復興計画の最終年度の32年度とされており、この4年間の対象とならない児童・生徒は不公平感を抱くものと推察される。33年度以降もこの制度を継続するべきと考えるが、いかがか。
町長 人材育成の観点からも、継続的に後押しすることは必要であると認識している。33年度以降については再度制度のあり方等も含め検討する。

その他の質問

◆集会施設のトイレ改修の年次計画は